

- 問1 安土桃山時代に、九州のキリシタン大名である大友宗麟らが中心となって行った外交事業について、正しい説明を選びなさい。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- 伊東マンショら4人の少年を、ローマ教皇のもとへ派遣した。
 - 仙台藩主の伊達政宗が、支倉常長をスペインやローマに派遣した。
 - 江戸幕府の命令により、長崎の出島を通じてオランダとの貿易を始めた。
 - 種子島に漂着したポルトガル人から、鉄砲の製造技術を導入した。
- 問2 15世紀から16世紀にかけての琉球王国は、東南アジア諸国から仕入れた品物を日本や中国へ売る「中継貿易」で繁栄しました。このとき、ヨーロッパ諸国もまた大航海時代としてアジアへ進出する強い動機となった、食肉の保存や薬用に用いられた胡椒（こしょう）などの植物産品を何と呼びますか。 (2014年 沖縄県公立入試 類似)
- 茶
 - 綿花
 - 砂糖
 - 香辛料
- 問3 16世紀後半の時期における文化について、姫路城に代表されるような壮大な天守を持つ城郭が築かれ、その内部が金箔を用いた障壁画などで飾られた主な背景として適切なものはどれか。 (2018年 福岡県公立入試 類似)
- 仏教の教えに基づき、現世の欲望を抑えた質素で落ち着いた空間を作るため
 - 南蛮貿易によってもたらされたキリスト教の精神を、建築を通じて普及させるため
 - 戦国大名が自らの富と強大な権力を誇示し、威風を周囲に知らしめるため
 - 公家文化の影響を強く受け、平安時代の貴族のような優雅な生活を再現するため
- 問4 16世紀後半に日本を統一した人物が行った政策について、全国の田畑の広さや土地の良し悪しを調査して収穫量を「石高」で表した「太閤検地」と、農民から武器を没収した「刀狩」の共通の目的として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 鹿児島県公立入試 類似)
- 土地の所有権をすべて寺社に帰属させ、宗教の力で一揆を抑制すること
 - 戦国大名の軍勢力を強化するため、農民を徴兵して大規模な軍団を組織すること
 - キリスト教の布教を促進し、南蛮貿易による利益を農民に分配すること
 - 武士と農民の身分を明確に区別する「兵農分離」を進め、社会を安定させること
- 問5 日本の歴史的な建造物について述べた次の説明のうち、桃山文化を代表する城郭建築の遺構として最も適切なものはどれですか。なお、比較対象として平安時代の厳島神社、室町時代の慈照寺銀閣、平安時代の中尊寺金色堂などの資料が並んでいるものとします。 (2021年 京都府公立入試 類似)
- 姫路城
 - 慈照寺銀閣
 - 厳島神社
 - 中尊寺金色堂
- 問6 16世紀半ば、種子島への鉄砲伝来をきっかけに始まった、ポルトガルやスペインの商人との貿易に関する説明として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
- 蝦夷地のアイヌ民族との交易を独占した松前藩が、サケや昆布などの特産品を全国に流通させた。
 - キリスト教の布教とともに、鉄砲や活版印刷術などの新しい技術や文化が日本に伝えられた。
 - 東南アジア各地に日本町が形成され、朱印状を持った船がタイやルソンとの間を往来した。
 - 長崎の出島を唯一の窓口とし、オランダから伝えられた医学や天文学などの学問が普及した。
- 問7 豊臣秀吉が発令した、諸国の百姓が刀、脇指、弓、槍、鉄砲といった武器を持つことを厳しく禁止し、これらを没収することを定めた法令の名称と、その法令が目指した目的の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。 (2021年 大阪府公立入試 類似)
- 刀狩令 — 農民による一揆を防止し、農業に専念させるため
 - 慶安の御触書 — 農民の日常生活を細かく規定し、年貢を確実に徴収するため
 - 禁中並公家諸法度 — 天皇や公家の行動を統制し、朝廷の政治関与を防ぐため
 - 武家諸法度 — 大名同士の勝手な婚姻を禁じ、軍勢力を制限するため
- 問8 16世紀のヨーロッパでは、航海技術の向上によって世界規模での交流が活発になりました。この時代にヨーロッパの人々が日本などのアジアへ来航し、キリスト教の伝来や貿易が盛んに行われるようになった背景を説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2017年 長野県公立入試 類似)
- ルネサンスによる科学技術の進歩で遠洋航海が可能になり、高価な香辛料を求める動きや、カトリック教会の改革に伴う海外布教が結びついた。
 - ベルサイユ条約の締結によってヨーロッパ国内の勢力争いが終結し、アジアの絹織物を独占するために、キリスト教を公認した国々が日本を訪れた。
 - 産業革命による工業化が進んだ結果、大量生産された商品売る市場を求めて新航路が開拓され、天保の薪水給与令によって寄港地が確保された。
 - 十字軍の遠征が成功したことで東方への関心が高まり、ルネサンスで生まれた最新の兵器を用いてアジア諸国をキリスト教の保護下に置こうとした。
- 問9 小田原の北条氏を降伏させ天下統一を成し遂げた時期の豊臣秀吉に関する記述として、法令によって百姓が所有することを禁止したものの組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
- 刀・脇差・鉄砲
 - 弓矢・槍・馬
 - 和同開珎・宋銭
 - 朱印状・キリスト教の聖書
- 問10 豊臣秀吉は、全国の田畑の面積や収穫量を調査する「太閤検地」を行う一方で、農民から武器を取り上げる政策を実施しました。これらの政策によって、武士は城下町に住んで政治や軍事を担い、農民は村に住んで農業に専念するという、身分が明確に分かれた社会の仕組みを何と呼びますか。 (2021年 大阪府公立入試 類似)
- 門戸開放
 - 兵農分離
 - 下剋上
 - 寄合
- 問11 太閤検地では、全国でバラバラだった容積の単位を統一するため、特定の大きさの「枧（ます）」が公認の道具として使われました。このように、秀吉が計測の基準を全国で統一した最大の目的は何ですか。 (2021年 鳥取県公立入試 類似)
- 全国の土地の生産力を同じ基準で把握し、農民から徴収する年貢の量を安定させるため。
 - 貨幣経済を浸透させるために、米ではなく金や銀による納税を全国に義務付けるため。
 - キリスト教の布教を制限するために、宣教師たちが持ち込む物資の量を監視するため。
 - 南蛮貿易において、輸出する銀の量を正確に測り、海外との取引を有利に進めるため。
- 問12 豊臣秀吉が天皇の代理人である関白の地位に就いた際、全国の大名に対して領土紛争などの「私戦（大名同士の勝手な戦い）」を禁じ、和平を命じた法令を何といいますか。 (2022年 香川県公立入試 類似)
- 武家諸法度
 - 総無事令
 - 刀狩令
 - 分国法
- 問13 戦国時代から安土桃山時代にかけての社会の変化について述べた資料において、兵農分離による影響を説明した空欄があるとします。その空欄に入る内容として、歴史的背景をふまえた最も適切な記述はどれですか。 (2017年 秋田県公立入試 類似)
- 検地によって農民の税負担を免除し、武士が自ら耕作に励むよう促した。
 - 武士を農村に住まわせることで、農民との日常的な交流を通じた連帯を強めた。
 - 身分の区別をなくすことで、実力のある農民が武士へと出世する道を広げた。
 - 刀狩によって農民の武装を解除し、一揆を防止するとともに身分を固定した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 伊東マンショら4人の少年を、ローマ教皇のもとへ派遣した。	1582年、九州のキリシタン大名である大友宗麟・有馬晴信・大村純忠の3名は、宣教師ヴァリニャーノの勧めにより、伊東マンショ、千々石ミゲル、中浦ジュリアン、原マルチノの4人の少年をローマへ派遣しました。これを天正遣欧使節と呼び、ヨーロッパの人々に日本の存在を広く知らせる契機となりました。伊達政宗が派遣したものは江戸時代初期の「慶長遣欧使節」であり、時期と主体が異なります。
問2	答え 4 香辛料	琉球王国は15世紀、東南アジアのタイやインドネシアなどから胡椒などを仕入れ、それを中国や日本に輸出する中継貿易で「万国津梁（世界の架け橋）」として栄えました。同時期のヨーロッパ諸国も、食肉の保存や風味付け、薬用として極めて価値が高かった香辛料を、イスラム勢力を介さず直接入手することを目指してインド航路の開拓などを進めました。
問3	答え 3 戦国大名が自らの富と強大な権力を誇示し、威風を周囲に知らしめるため	安土・桃山時代の文化は、天下統一を推し進める新興の政治勢力である戦国大名の好みを強く反映している。城郭は単なる軍事拠点にとどまらず、自らの支配力の正当性と圧倒的な力を視覚的に示すための象徴としての役割を担った。そのため、装飾はより豪華で壮大なものへと発展した。
問4	答え 4 武士と農民の身分を明確に区別する「兵農分離」を進め、社会を安定させること	太閤検地によって農民の耕作権と年貢の負担義務を確定させ、同時に刀狩を行うことで農民から反乱（一揆）の手段を奪い、農業に専念させました。これにより、戦う役割の武士と、生産を担う農民の区分を明確にする「兵農分離」が確立され、近世の封建社会の基盤が整えられました。
問5	答え 1 姫路城	桃山文化は織田信長や豊臣秀吉の時代を中心に、大名たちの権力を象徴する城郭建築が発達した時期です。姫路城はその代表的な遺構であり、防御機能だけでなく、書院造の意匠を取り入れた豪華な内部構造を持っています。厳島神社や中尊寺金色堂は平安時代、慈照寺銀閣は室町時代の東山文化を代表する建築物であり、時代背景が異なります。
問6	答え 2 キリスト教の布教とともに、鉄砲や活版印刷術などの新しい技術や文化が日本に伝えられた。	16世紀半ばに始まった南蛮貿易では、ポルトガルやスペインの商人が来航し、貿易とキリスト教の布教が密接に結びついて行われました。この貿易を通じて、軍事面に大きな影響を与えた鉄砲だけでなく、活版印刷術などの西洋の技術も導入されました。オランダとの貿易や蘭学は江戸時代の鎖国下の特徴であり、アイヌとの交易は松前藩、日本町の形成は江戸時代初期の朱印船貿易に関連する事柄です。
問7	答え 1 刀狩令 ― 農民による一揆を防止し、農業に専念させるため	豊臣秀吉は、農民が武器を持って反抗（一揆）することを防ぐために、刀や鉄砲などの武器を没収する「刀狩令」を出しました。これにより、農民を耕作に専念させて年貢を安定的に確保しようとする狙いがありました。選択肢にある他の法令は、いずれも江戸時代に徳川幕府が制定したものであり、対象や時代背景が異なります。
問8	答え 1 ルネサンスによる科学技術の進歩で遠洋航海が可能になり、高価な香辛料を求める動きや、カトリック教会の改革に伴う海外布教が結びついた。	14世紀から16世紀にかけてのヨーロッパでは、ルネサンスの影響で科学的な知識や航海術、地理的認識が大きく進展しました。これにより、当時肉の保存や薬用として需要が高かったアジア産の香辛料を、イスラム勢力を介さずに直接入手するための新航路開拓が始まりました。また、宗教改革によって勢力を弱めたカトリック教会が、組織の改革を図るとともに、新たな信者を求めて海外への布教（対抗宗教改革）に力を入れたことも、宣教師が来航する大きな要因となりました。
問9	答え 1 刀・脇差・鉄砲	秀吉は1588年に出した刀狩令の中で、百姓が刀や脇差、鉄砲、弓、槍などの武器を持つことを厳しく禁じました。これは、戦国時代まで曖昧であった「武士」と「農民」の境界をはっきりと分ける兵農分離の基盤となりました。
問10	答え 2 兵農分離	刀狩によって農民から武器を奪い、検地によって耕作者を確定させたことで、それまで曖昧だった「武士」と「農民」の区別が明確になりました。この歴史的な転換を「兵農分離」と呼び、安土桃山時代から江戸時代にかけての封建的な身分制度の基礎となりました。
問11	答え 1 全国土地の生産力を同じ基準で把握し、農民から徴収する年貢の量を安定させるため。	太閤検地以前は、地域や領主によって測定に使う柵の大きさが異なっていたため、全国的な経済力の把握が困難でした。秀吉は「京柵（きょうます）」という規格に統一することで、全国どこでも同じ基準で収穫量を測れるようにしました。これにより、土地の面積や良し悪しに応じた正確な「石高」を算出でき、政権の財政基盤となる年貢を確実かつ公平に徴収することが可能になりました。
問12	答え 2 総無事令	秀吉は、朝廷から任じられた関白という最高の地位を政治的に利用し、自分には日本全国の平和を維持する権限があることを示しました。これによって、命令に従わず戦いを続ける大名を「天皇に逆らう賊軍」として討伐する正当性を得て、天下統一を加速させました。
問13	答え 4 刀狩によって農民の武装を解除し、一揆を防止するとともに身分を固定した。	兵農分離の重要な目的の一つは、農民による武装蜂起（一揆）を防ぎ、社会を安定させることにありました。刀狩によって武器を取り上げられた農民は耕作に専念せざるを得なくなり、一方で武士は城下町に居住する専門の統治者となりました。この仕組みによって、支配する側とされる側の区分が社会的に固定されることとなりました。